

「地域と学校の連携・協働体制構築事業」における重点的に取り組む課題に応じた目標及び実績

●令和7年度

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
20321軽井沢町	②学校と地域の課題	05 その他	放課後子ども教室を利用する児童において、主体的に学習するという習慣化が見られない児童がいる。	①入館の時点で学習時間と学習する場、学習内容を自分で決める。 ②学習意欲が持てるようスタッフが関わり方を工夫して支援する。 ③Wi-Fi環境の整備を行いタブレット学習にも対応できるようにする。 この3点を実施して主体的な学習の定着化を目指す。	①入館後は直ちに学習室での学習を行うことをきまりとして習慣化を図ったが情性的な取組状況になっていた。 ②スタッフの支援も声掛けにとどまり学習意欲を喚起できるまでの支援となっていなかった。 ③Wi-Fi環境が無く学校から貸与されているタブレットでの学習ができなかった。これらのことを踏まえ令和7年度は、学習時間、学習空間を学習者本人が決めることができるようにすると共に、スタッフも研修により児童が主体的に学習に取り組む支援ができるようにしていく。また、タブレット学習ができるようWi-Fi環境を整備する。	主体的に学習に取り組めるようになる。	いつ、どこで学習するかを決めて学習している児童の割合（アンケート実施）	0	%	30	75%	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた。 いつ、どこで学習するかを本人が決めて学習できるよう放課後子ども教室の学習時間、学習空間の制限を無くした。また、Wi-Fi環境も整え、タブレットでの学習もいつでもできるようにした。加えて、学習をいつ、どこで行うかを定める機会を来館時に玄関先のホワイトボードに各自、掲示することで意思表示ができる仕組みにした。これにより、目標の達成度を測る指標の本人が意思表示することは概ね100%達成できたが、「放課後子ども教室以外で学習する」と決めた児童については、いつ、どこで学習するかを把握できていない。 成果としては、放課後子ども教室での過ごし方を見直しをもって活動できる児童が増えたこと、意思表示を掲示することで保護者・スタッフが共有でき、相互に学習に向けた声掛けができるようになったこと、スタッフも児童の決定した学習が履行できるよう、一人ひとりにあった支援方法を検討したり研修を受講する等、試行錯誤で取り組む姿が見られたことが挙げられる。

●令和8年度

市町村名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和8年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和7年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）
20321軽井沢町	②学校と地域の課題	05 その他	放課後子ども教室において、児童の主体的な活動を支援しているが、学習への取り組みの支援が十分でなく、学習の習慣化が図れていない。	職員が、子供たちが主体的な取り組みになるような声掛けや支援の在り方を学び、支援のスキルを上げる。	学習時間と学習場所・学習内容を自分で決め、主体的に取り組む姿が見られるようになってきたが、一定数、学校以外で学習する習慣のない児童がいる。	打ち合わせ会議や研修会を行い、職員が支援の在り方を研究することで、効果的な働きかけができるようになる。	支援の在り方を研究する研修への職員の参加率	60	%	80		
20321軽井沢町	②学校と地域の課題	05 その他	放課後子ども教室において、問題行動のある児童の情報不足により支援方法や対策が講じ難い	児童の理解を深めるための情報共有の場を設ける。		児童の理解が深まりより良い支援ができるようになる。利用児童が、理解者を得て安全に楽しく過ごせるようになる。	児童理解を深めるためスクールカウンセラーとの連携会議を行う。	0	回	6		